

重点プロジェクト (5) ふるさと農村元気プロジェクト

【ねらい】

◇中山間地域の農村集落において、農村住民自らが主体性を持ってコミュニティ活動として取り組む農業生産活動や都市住民との交流活動への取組、新たなビジネスへの取組などを支援し、元気溢れるモデル的な農村集落を創ることにより、その波及効果により他地域の農村コミュニティの維持・強化を図ります。

目標指標	H22 基準年	H25 実績	H29 目標年
重点地区の設置	0 地区	10 地区	20 地区

<施策の取組状況>

① 市町村等と連携した重点地区の設定と行動計画の作成支援

- 地方事務所、農業改良普及センター、市町村が連携して、中山間地域の集落の中から農村コミュニティ活動に取組む意欲のある集落を重点地区として選定しました。
- 農村コミュニティ活動の行動計画の策定にあたっては、集落住民同士の話し合いに地方事務所、農業改良普及センターが参加し、事業計画の検討会を行いました。
- 農村コミュニティ活動を新たに取り組む集落については、市町村、地方事務所、農業改良普及センターが、集落住民との話し合いに積極的に参加し、農村コミュニティ活動の行動計画の策定を支援しました。
- 行動計画の見直しや改善を行うため、集落住民の話し合いに市町村、地方事務所、農業改良普及センターが積極的に参加し、意見交換を実施しました。

② 地域の知恵と工夫を活かした取組への支援

○ 農業生産活動の継続

- 遊休農地を活用した取組を支援するため、新たに取り組む作物栽培等の支援を行うとともに、生産した農産物の加工・販売方法等について地方事務所、農業改良普及センターが関わり、指導・助言を行いました。
- 高齢化・過疎化による遊休農地の増加を防ぐため、地方事務所職員が地域活性化と地域農業の発展に向けた集落住民の検討会に参加し、営農活動の継続のための仕組みづくりや地域活性化のための事業計画について意見交換を行いました。
- 地域農産物のブランド化に向けた取組や地域資源の掘り起こし、農産加工品の取組に向け市町村、地方事務所も加わり、集落と一体となって検討を進めました。
- 都市住民との交流促進のための農園整備や肥培管理技術について、農業改良普及センターが技術指導を行うとともに、新たな販売方法について集落住民と一体となって検討を行いました。
- 棚田の再生と棚田を活用したコミュニティ活動を構築するため、市町村、地方事務所が指導・助言を行いました。



【遊休農地を活用したそば畑】

○ 農村コミュニティビジネスの創出

- 集落との検討を進める中で、学校給食への食材提供や農作物の収穫体験等の新たなコミュニティ活動の提言を行いました。
- 小学生や保育園児を対象にした、農作業体験を通じた食育活動の取組を支援しました。
- 遊休農地の再生と地域特産品の生産拡大による農業生産活動の活性化に向けた取組を、市町村、地方事務所が一体となって支援しました。



【学校給食にブルーベリーの提供】

○ 都市住民との交流活動の促進

- 都市住民を対象にした交流事業を実施するため、集落組織の打ち合わせ会議に参加し、指導・助言を行いました。
- 野菜・果樹の収穫体験、おやきづくりなどの農産物加工体験の開催により、都市住民との交流促進を支援しました。
- 都市住民を対象に、地域特産物である信州伝統野菜を活用した、栽培講習会や料理講習会の開催を支援しました。
- 棚田を活用した新たなオーナー制度の構築に向け、集落住民の話し合いに市町村、地方事務所の職員が参加し、オーナー制度の構築を支援しま



【おやきづくり体験】

<今後の展開方向>

- 農村コミュニティ活動の継続的な実施に向けた集落内の合意形成を進めます。
- 都市農村交流事業のリピーターを確保するとともに、農家民宿とも連携した新たな受入体制の整備を支援します。
- 保育園児、小学生を対象にした食農体験の受入を支援します。
- 地域資源の掘り起こしと魅力ある新たな商品開発に向けた取組を支援します。
- 棚田を活用したオーナー制度の取組を支援します。

TOPIX

農を通じた都市住民との交流会を開催

南木曾町読書地区の花桃会（13戸）では、活気ある集落活動を取り戻すために、遊休農地13aを活用し、都市住民を対象にした体験農園を開設しました。

本年度は、じゃがいも掘り、そばのは種・収穫・脱穀、そば打ち体験、収穫祭を通じた交流会を開催し、中京方面から延べ140人の参加がありました。

次年度は、リピーターに加え、更なる参加者の募集を行い、遊休農地対策や農村交流の受け入れ、新たな農産物の販売拡大も視野にこの事業に取組むこととしています。

